

## オリジナルe-Learning中国語教育の試み

## An Attempt in Original e-Learning Teaching of Chinese

馮 富榮 杜 英起

愛知淑徳大学コミュニケーション学部

Abstract: This research is aimed at realizing original e-Learning teaching of Chinese. It is implemented in three aspects: 1) for compilation of the original texts, topics that are close to students, such as hobbies and campus life, are used; 2) for compilation of the media texts, a variety of operating methods and the fun while studying are pursued as much as possible; 3) for teaching in the classes, interest, ease of understanding and visible self-improvement which could stimulate the motive of the learners, are thoroughly pursued. As a result, it becomes possible for students to do the following things without the guidance of teachers: 1) study and practice of the pronunciation of Chinese; 2) practice of listening; 3) preview and review of the classes which may include pronunciation and translation. Besides, students become able to check their answers immediately when they are doing practice tests. On the other hand, the grading work is not only simplified for teachers, but also becomes more fair and trustworthy. Moreover, when compared with classes carried without media texts, it is found that students with media texts make quicker improvements in pronunciation and writing.

Keywords: e-learning, teaching of Chinese, media text, self-learning

## 1. はじめに

少子化が進んでいる中、大学教育における競争がますます激しくなってきた。そこで、「どのようにして授業を改善すれば優秀な人材が養成できるか」、また「どのような特色を出せば、魅力的な授業が実現できるか」が私たち教育者に課せられる課題となった。本学科は2000年に発足して以来e-Learning中国語教育の実現を目標に掲げ、メディア教材の作成や授業の進め方を中心に、教育方法の改善を試みてきた。本論ではその中の「中国語作文」を中心にして考察する。

## 2. 従来の問題点と本研究の目的

従来の大学における中国語教育では下記の問題点が指摘されている<sup>(1)</sup>。

難関とされている中国語の発音は、教員がいないと学習も練習もできない。

教材のほとんどは本文に発音記号の“拼音”が付いているため、学生たちはそれに頼ってしまう。よって“拼音”が

ないと読めない。

聞き取りの練習は授業以外の時間では難しい。

練習問題の多くは繰り返しの作業なので、退屈になりがちである。

教科書の内容が簡単なため、何年学習しても話せるようにならない。

本文の内容が学生の生活からかけ離れているため、興味が沸かない。

上記の問題点の改善を目的としてオリジナルメディア教材を開発し、それをWebサイトに載せて授業や自習などに利用することができるようにした。そのためにはまず、教材の原稿作成から始めることが必要で、また、効果的な教育を実現させるには、教材を設計する際の工夫や、授業の進め方の改善が不可欠である。よってその3点から改善を試みた。

## 3. 改善の内容と方法

### (1) 教材原稿を作成する際の工夫

本文に発音記号の“拼音”を載せない

“拼音”を付けると、確かに読みやすい。

しかし、学生たちは普段“拼音”を見て読む

Furong Feng\* and Yingqi Du  
Aichi Shukutoku University  
\*E-mail: lili@asu.assa.ac.jp

ことに慣れているため，“拼音”がないと読めなくなる。漢字だけで読めるようにしないと社会に出ても通用しない。漢字を見て読む習慣を身に付けさせるために，“拼音”を本文に載せないことにした。

同じ単語や同じ文型を同じ本文で繰り返し使う

第1課の本文は下記の通りである。

今天星期一,昨天星期天;今天星期一,明天星期二.前天星期六,大前天星期五;后天星期三,大后天星期四.

今天不是星期二,是星期一.明天不是星期一,是星期二.后天不是星期二,是星期三.大后天不是星期三,是星期四.昨天不是星期一,是星期天.前天不是星期天,是星期六.大前天不是星期六,是星期五.

覚えやすくするために,同じ単語や同じ文型を同じ本文で繰り返し使うように工夫した.そのために初めての中国語授業なのに,学生の大多数はこの本文が言えるようになる.

前の課で習った単語や文型をできるだけ後の課でも繰り返し使用する

第2課の内容は下記の通りである。

今天是晴天,昨天是阴天,前天也是阴天.大前天下雨了,明天也下雨.后天不下雨,大后天也不下雨.我喜欢晴天,不喜欢阴天,也不喜欢下雨.夏天雨多,春天和秋天雨少.冬天下雪,夏天、春天和秋天不下雪.我很喜欢下雪.我也喜欢春天和秋天.春天和秋天不冷也不热,也很少下雨,晴天很多.我们都喜欢春天和秋天.

以上のことから分かるように,私たちは教材の作成にあたって,同じ単語などを同じ本文で繰り返し使うほか,前の課で習った単語などを次の課でも繰り返し使うように工夫している。

学生に身近な話題を内容にする

実際のコミュニケーションで使いやすくするために「天気」「私の部屋」「私の趣味」など,学生にとって身近な内容をできるだけ取り入れた.例えば,第4課の概要を日本語に

訳すと「私は雑誌を読むのが好きなので,部屋のいたるところに雑誌がある.机の上もベッドの上も床も雑誌だらけだ.私の部屋はとても乱れていて汚い.だから,どうか私の部屋に入らないで。」という内容である。

HSK(中国政府により唯一認定された中国語能力試験「漢語水平考試」の略語)の出題方式に倣って練習問題を作る

本学では希望者全員が無料(受験料大学負担)でHSK試験を受けることができるので,その試験問題に慣れさせ,よい成績を取らせるのが狙いである。

## (2) メディア教材を設計する際の工夫<sup>[2]</sup>

授業外でWebサイトを利用すれば,教員による発音の学習と練習ができる

本文を最初から最後まで一通り聞くことも,一文ずつ聞くことも,聞きたいところだけ聞くこともできる.また,聞くだけでなく録音機能も設置したので,自分の発音を録音して,自分と教員の発音を聞き比べることもできる。

本文から文法説明にジャンプすることができる

本文に出ている新しい文法表現をクリックすると,文法の説明にジャンプすることができる.もう一度クリックすると本文に戻る.また,文法説明に使う例文の発音も聞けるようにし,もっと勉強したい学生のために,勉強できる環境を教室以外にも提供している。

“拼音”というボタンを設置する

本文を読んでいて,どうしても発音ができないとき“拼音”が見たくなる.そのために“拼音”というボタンを設置し,学生たちが見たいときにそれをクリックすれば,いつでも見ることができる.もう一度それをクリックすると“拼音”が消える。

「日本語訳」というボタンを設置する  
本文を予習したり復習したりするとき,本

文の意味が分からないことがしばしばある。そのために「日本語訳」というボタンを設置した。それをクリックすれば本文の上に該当する日本語訳が現れる。

「ヒント」というボタンを設置する

「ヒント」をクリックすれば、本文の日本語訳の下にキーとなる中国語の単語が所々に現れてくる。学生たちは日本語訳を参考にしながら、中国語の単語をヒントにして本文を話す練習ができる(図1を参照)。



図1 本文の「ヒント」

単語の発音を一個ずつ聞けるほか、単語を覚える練習もできる

単語表の発音を最初から最後まで一通り聞くことができ、また聞きたい単語をクリックすると、その単語の発音だけを聞くこともできる。さらに、“拼音”を消して単語を読む練習、単語の日本語訳を見ながら中国語を話す練習、中国語の単語を見ながら日本語に訳す練習はすべてクリックすればできる。もちろん、ここにも録音機能がついている。

練習問題を行うとき、正しかったか否かの判断ができる

練習を行うとき、正解すると「○」、間違っていれば「×」が即座に表示される。また「正解」をクリックすれば、すぐ正解を教えてくれる。つまり、そばに教員がいなくても学生が自分で予習や復習ができるようになっている。

完全にマスターするまで繰り返し練習しなければ課題提出できない

各課に5種類の練習問題が設けられており、各種類の問題は5題~10題の小問題から構成される。第一種類の小問題を全部正解しないと第二種類の練習ができないので、もう一度やらなければならない(図2を参照)。



図2 次の練習へ進めない例

図2から分かるように、第二種類の練習問題に一つでも間違いがあれば、もう一度やり直さなければならない。第二種類の小問題にすべて正解すると自動的に第三種類の練習に入る。このように、第五種類の最後の問題まで全部正解して、はじめて宿題を提出することになる。なお、学生は学内LANを通して宿題を提出し、その際、学籍番号と氏名を入力する必要がある。

ゲーム感覚で練習問題に取り組める

練習問題を行うとき、正解すれば、拍手音が起こり、間違っていればブーイング音が出るので、ゲーム感覚で練習に取り組むことができる。

画面や音楽を楽しみながら、学習することができる

Webページを開けば、中国の古典的な絵が出てくるとともに、中国の伝統楽器である胡弓で演奏された本学の校歌が流れてくる。身

近な校歌と異国の伝統楽器をプレントすることによって、親しみを感じながら異文化に触れ合うことができる。学生たちは胡弓の優雅な音色を聞きながらリラックスした気分で勉強することができる。

### (3) 授業の進め方に関する工夫

最初の2週間で発音を一通り教え、完璧な発音習得は要求しない

その理由は以下の通りである。

ア．発音の学習は一番退屈しやすいので、この期間を延ばすと中国語の学習意欲を低下させかねない。

イ．発音の習得が時間を要するので、1ヶ月数回の講義だけで完璧な発音を要求することは、学生の自信を喪失させる恐れがある。

ウ．18歳を超えた学生にとって完璧な発音の習得は不可能に近い。

3週目から本文の学習に入り、単語の学習を利用して発音の訓練をする

単語から講義するが、教員の後について読むのを極力避け、まず学生に“拼音”を見て読ませ、間違ったらその場で訂正する。このような訓練を繰り返しているうちに、学生たちは自分で“拼音”を見て読めるようになる。

毎週10個の単語テストで百点満点とし、その平均点は期末評価とする

語彙量は語学力の基本であり、それを増やすためには日々の練習が不可欠である。単語テストの狙いは日常の練習を促し、漢字を書く練習をさせることにある。

教えるのではなく、学習させる

授業の最初に、まず単語を徹底的にできるまで練習させてから、文法の説明に入る。その後、スクリーンに日本語訳を出して、日本語訳を見ながら中国語の本文を話させる。

単語の並べ方を重点的に説明する

中国語は述語の語尾変化もなく、助詞もな

く、単語を並べるだけで文になる。しかも単語の順序が違うと、短文の意味も違ってくる。つまり、中国語学習の鍵は単語の並べ方にあるので、授業では単語の並べ方に特に力を入れて説明している。

間違いやすいところを重点的に説明し、注意を促す。

学習は問題発見から始まる。学生が間違いやすいところは、概ね問題点を学生自身で発見しにくいところにある。そこを重点的に説明することによって、学生の問題発見を助けることができる。

## 4. 実践による改善の効果

発音の上達が早かった

発音も四声も正しく読め、また“拼音”がなくても本文が読めるようになった。

中国語が聞き取れるようになった

本年6月8日に、1年生(28名)を対象にして、事前に知らせることなく下記の聞き取り練習を行った。3回読んだだけである。

我们大学是爱知淑德大学，我是爱知淑德大学一年级的学生。我们大学不在名古屋，在名古屋附近。我们大学不大，但很漂亮。我每天来大学，每天都学习中文，每天都学习英语。我很喜欢我们的大学，很喜欢学习中文，也很喜欢学习英语。

我们学校有一个很大的图书馆，图书馆里有很多书。有日文书，有英文书，也有中文书。我每天都去图书馆看书。

上記の文章は学生たちの既習知識に基づいて作ったものである。それを95%（書けた単語の数で計算した）以上書き取った学生は23人、60%以上書き取った学生は3人、あまり書き取れなかった学生は2人だった。

簡単な作文が書けるようになった

1年生前期の学生（中国語学習歴は3ヶ月ほど）の作文を他履修者への参考として本学科のWebサイトに載せた。

中国語への学習意欲が高くなり、中国語学習に興味を持つようになったアンケート調査の結果を表1にまとめた。

表1 アンケート調査の結果(57名)

質問項目	はい	いいえ
勉強になった	96%	4%
思った以上に面白い	82%	18%
勉強しなくなった	89%	11%
予習や復習が積極的である	47%	53%
中国語の学習意欲が高くなった	74%	26%
教科書だけの授業よりよい	70%	30%

表1から分かるように、中国語学習に対して全体的にプラス評価になっている。また「中国語作文」の授業は自由履修科目であるにもかかわらず、昨年前期に「中国語作文」を履修した87名のうち、85名が後期の「中国語作文」も履修した。ただし、予習や復習が積極的という項目に「はい」と答えた割合は少なかった。

## 5. 語学教育への貢献

単語や例文の板書時間が省かれ、教育効率の向上が期待できる

クリックすれば単語や例文をすぐスクリーンに出すことができるので、授業の雰囲気を保つことができ、板書の時間も節約できる。

習った知識の習得が期待できる

練習問題を解く度に、正解を示す番号がランダムになるので、「慣れ」による仮の習得ではなく、完全なマスターが期待できる。

学習の内的動機付けを高めることが期待できる

音楽を楽しみながら学習できるだけでなく、自分で様々な操作ができるので、学習を楽しむことができる。

教員側の添削と採点作業が省かれる

練習問題が完全にできないと宿題は提出できないようになっており、宿題の提出状況と日常の単語テストで期末評価を下すので、ほぼ全員の学生が宿題を提出している。そのため、教員側の添削と採点作業が省かれる。

公正で信頼度の高い成績評価ができる宿題の提出状況をサーバに記録してあるので、公正かつ信頼度の高い成績評価が期待できる(表2を参照)。

表2 宿題提出状況表(例)

学籍番号	第一課	第二課	第三課	第四課
1	合格	合格	合格	不合格
2	合格	合格	合格	不合格
3	合格	合格	合格	不合格
4	不合格	不合格	不合格	不合格

LANがなくても学習できる。

本教材はCD版として使用できるので、パソコンさえあれば場所を問わずいつでも学習することができる。

日本語教育にも活用できる

このメディア教材は日本人の中国語学習のために開発されたが、本文、単語、文法の説明用例などが日本語の対訳になっているので、中国人の日本語教育にも活用できる。

## 6. おわりに

e-Learning中国語教育を試みてから4年以上過ぎた。現在、8教科のメディア教材を完成し、Webサイトに載せている。もちろん、LANの接続や学生指導などに問題点がまだ多く残っている。現在取り組んでいるのは、練習問題のどこに間違いが起こるかをサーバに記録することで、後期からの実現が期待される。今後は問題点の一つずつ改善し、最終的には中国語教育の全科目をWebサイトに載せる計画である。

## 参考文献および関連URL

- [1] 馮富榮, 杜英起: 日本における中国語の教育について. 愛知淑徳大学論集コミュニケーション学部編 第4号, pp.143-156, 2003.  
[2] <http://www.dlc.aasa.ac.jp/zgyzw/index.htm>